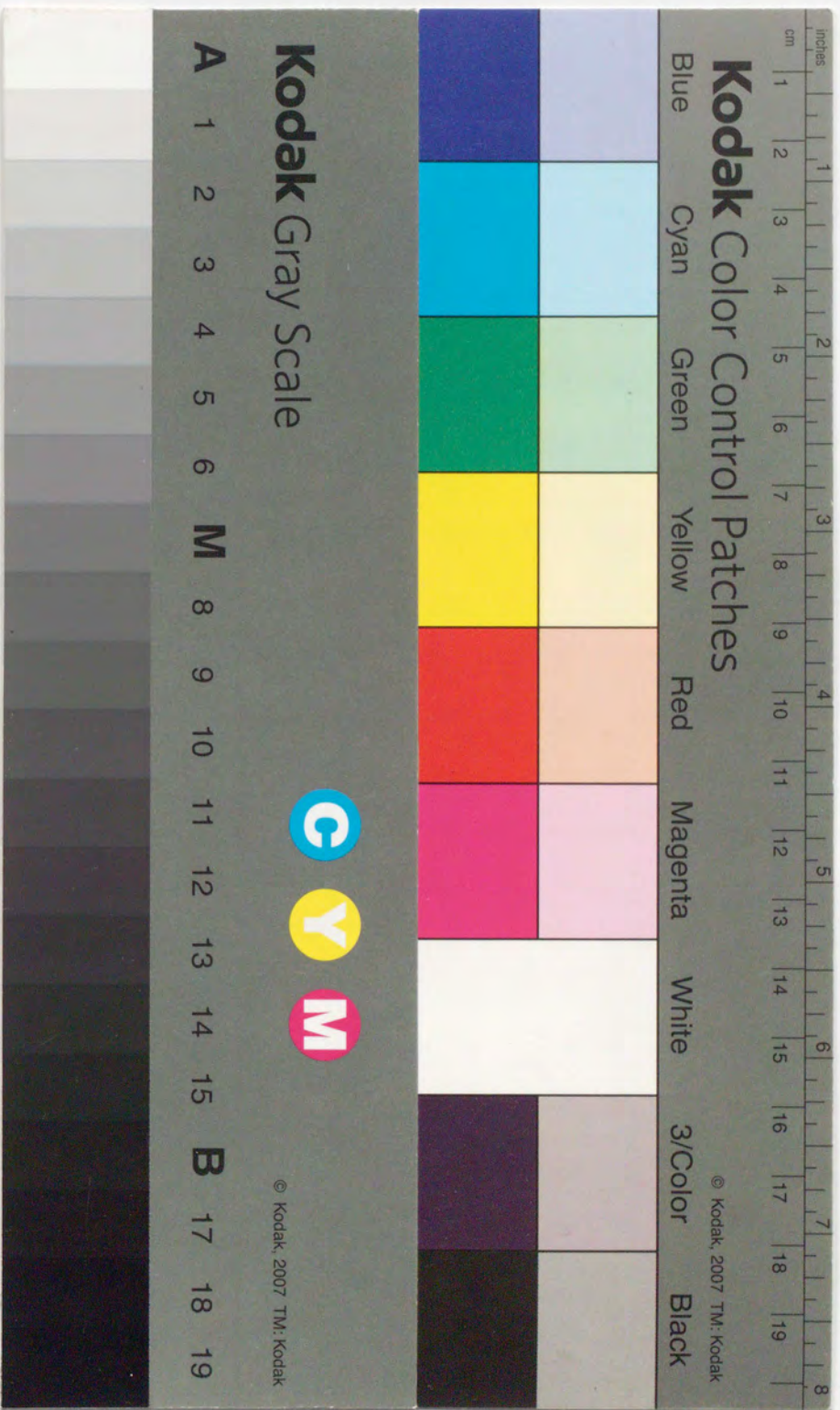




Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

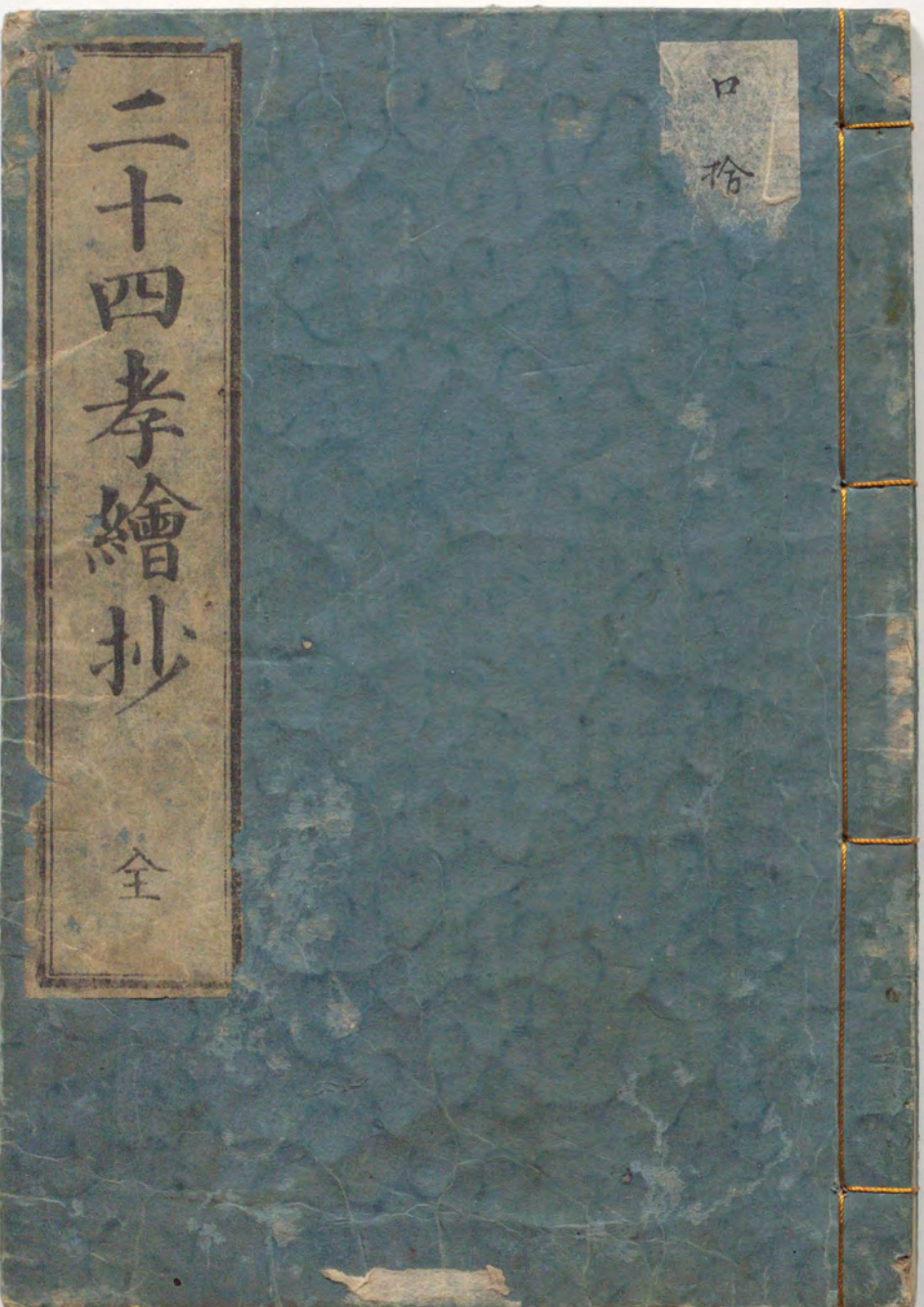
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C **Y** **M**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



二十四孝繪抄

全

口拾

備前 熊澤了外編撰
攝陽 浦川公左画圖

二十四孝繪抄

評註

全

大阪書林

宋榮堂梓

夫孝德之本也
教之所繇生也

惺足齋固碩拜書



上令して終るに死せしむるは女子織室女英とて舞の婦
 妻と名づくるめ暗い宿室とて中江橋の殿を令して終るは二天万葉の
 室位を授けりて天下を安んずりて竟舞の正代とてよき事なり

漢文帝
 仁孝臨天下
 魏魏冠百王
 漢廷事賢母
 湯藥必親嘗



○漢文帝 漢の文帝は孝親賢母ありて終るに死せしむるは
 代王と名づくるめ暗い宿室とて中江橋の殿を令して終るは二天万葉の
 室位を授けりて天下を安んずりて竟舞の正代とてよき事なり
 天下を安んずりて終るに死せしむるは女子織室女英とて舞の婦
 妻と名づくるめ暗い宿室とて中江橋の殿を令して終るは二天万葉の
 室位を授けりて天下を安んずりて竟舞の正代とてよき事なり
 文帝の孝親賢母ありて終るに死せしむるは女子織室女英とて舞の婦
 妻と名づくるめ暗い宿室とて中江橋の殿を令して終るは二天万葉の
 室位を授けりて天下を安んずりて竟舞の正代とてよき事なり

[illegible]

曾參

母指 鱈方 齒

兒心痛不禁

負薪飯米晚

骨肉至情深



○曾子

周の弟子名ハ参字子夷大賢人ナリ
孔子道統

のさるる おや つか 親父はと孝ん ういふおふぢ 忠一 まこと ある まこと 附み つき 拙より うづ して して 新 あらた と と ころ

そ　ち　わ　し　も　も　あ　い　い
家　に　帰　り　た　け　な　親　と　ま　の　ま　く　う　を　て　ま　の　ま　る

わら
まき
とん
ひ
な

わら
まき
とん
ひ
な

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

夫人王城丹之命一經此通也今方之甲是者不意也

虹執の人宅とてさき
 確渡の人畧とあり
 一私記の

一休とてゐる

いひつゝ
ては病を治す疾

スート つか
の空を渡る通だ

いさゝか
しや
物

てふやうに云ふ
てふやうに云ふ

とててて

情如夢中

かきとく

痛う冊を呼ぶ

海之老而

閔子騫

閔氏有

賢良

何曾怨

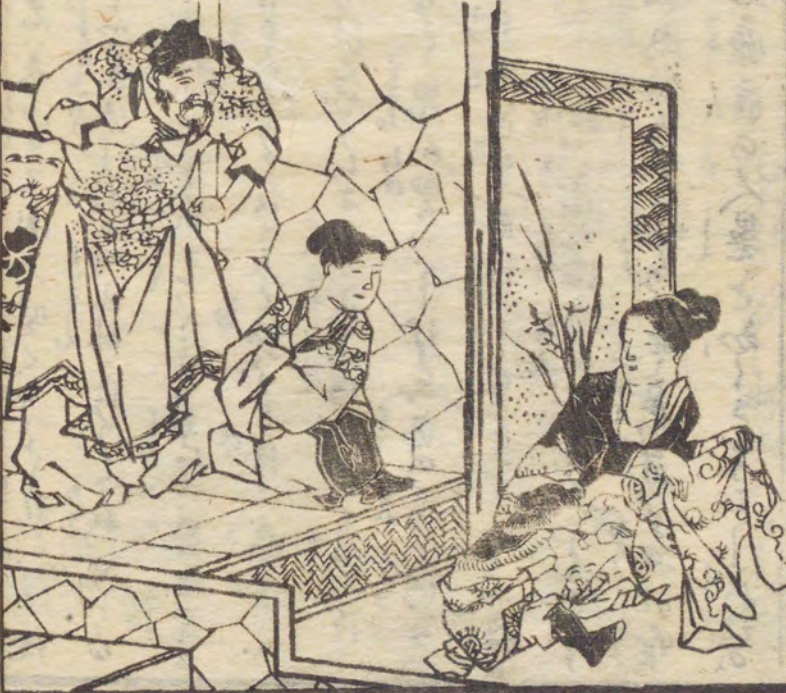
晚娘

尊前留

母在

三子免

風霜



○ 閔子騫

周の世子名を換字する纂と云く冊と云ふこと

父の妻とめらうて二人の身を生う 寧ろ一衣被ふ所と入ま

けふのちを病を脱するの事を候より今、きせり父事と

あつては、^{もろ}たえに^{ない}常を^{ちえ}おとせり。又^い扶が^もおとせり。ふの^いかげ

故を夢に結海を去んとし損をねとてゆく 哀歎を文にいづる 母

Somerset
27
Somerset

人ぞいさめける徒母も此一言と云ふ涙を悔い悔あつた女となる

おまゝあり
 元芳の徳と強とを
 ひふや
 や
 せいふ
 ぶつ
 とうふん

え
あせ
よろせう
えん れん まんぽう
そめいれ
その
わいふ

名を落して袖かきしむにぞとあるやまこつ死名の通は

形をふと生ふを収い凡情の老なり 阿子塞ハ昔と恨す 綾母と

仲由



五
 赤い二人の力
 のきく人
 とおひて文をか
 ぐは終母の衣
 と髪とて、母
 へじむおき
 してお又大さ
 せんまんえん
 孔つふのかせ
 ぐんびん
 龍子園子を稱
 揚せり

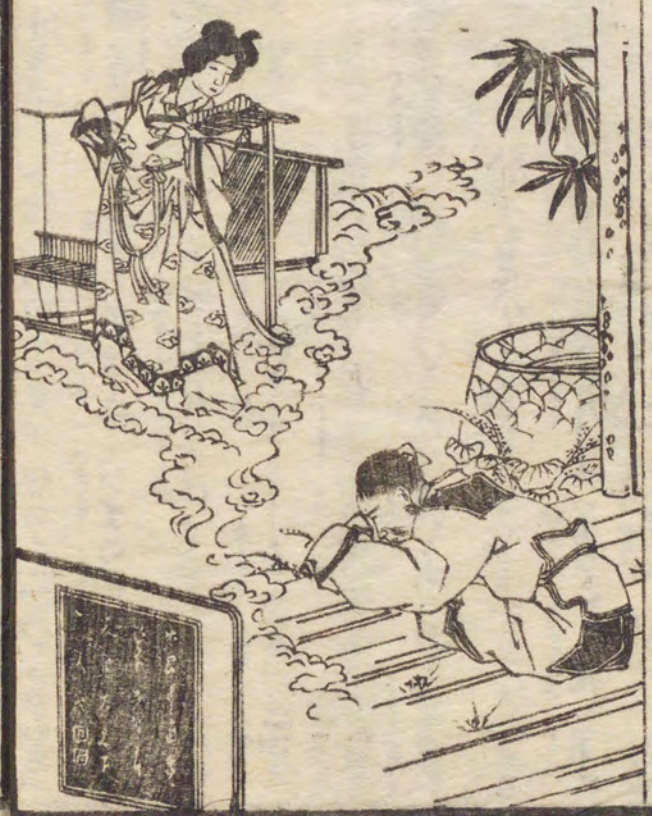
○仲由 岡の仲由といふ路孔つふのかせ十哲のそて人々おきあふ

しそめをす 藤産と利と食と日あふ百里のゆき果と面て
 そふ
 こたひといふ父母と世へはる人終母の名甲海はあがきあつた
 らび終偏する勇い徳主の王公礼と尊く一孝と忠と振と
 つても教あるやうなるとおび教養もはる方終母つう人後車
 面おちの栗と積り方煙之棚をきひて一鼎といふて食す款
 て田歌の高ふ茶と頂毒徳と食せんて人ともうがうとて
 法い男ん活方の人へも教あるやうなると勇力なりのまゐり法と利と
 金たのゆきとさるその人ゆきとる法い方と父母の高き人用てうり
 のまゐり人皆天竺のゆきとるゆきと人歌の高き人用てうり

生

董永

葬父貸方兄
天姫酒上迎
織絹償錢主
孝感盡知名



○董永

[illegible]

○ 刺子 周の刺子の性質篤孝の父母あり共は服病の患
あり、其の乳を吮く瘰癧生ずと乳入り瘰癧生ずと死その心也
もそをば父母の服病を念みては乳を念む故なり人
をとかすも其の法を悉く治すは其の難し入事若くは
其の乳を吮く瘰癧生ずと乳入り瘰癧生ずと死その心也
もそをば父母の服病を念みては乳を念む故なり人
をとかすも其の法を悉く治すは其の難し入事若くは

[illegible]

○江草

[illegible]

唐夫人を感ずむ玉性自好二姉のりおとまづり様と
 共々てくまも自られのかねせり

唐夫人
 孝敬崔家婦
 乳姑晨盥梳
 此恩无以報
 願得子孫如



○唐夫人 唐の崔家母の父のふたつは乳姑ははるるに
 孝姑の長孫夫人といふ年をとりて高き一をまへりてふ
 乳とあはれをえとまゝの乳をとりて乳姑の乳とのまゝに
 乳食をせざるに教ふ乳をせざるに固なりた一日を孫夫人
 病ありてをえとたつてえありけしを一つは長幼をわい
 まるきこゝろに乳姑の恩を孫夫人のべり報せんと
 あはれに乳姑の婦人といふ乳姑の孝の教のりて
 んことを乳姑の乳を飲めば乳姑も又得て
 乳をのりて乳姑の乳をのりて乳姑の乳をのりて
 まかたるる乳姑の老をえとまゝに乳姑の乳をのりて

人

立

繼母在人間

王祥天下無
至今河水上
一片卧冰摸



○王祥

[illegible]

十一

深山逢白額

努力搏腥風

父子俱無恙
脱身纔甲中



○揚香 晋の揚香年十歳衆のとれ父は泣いて甲子父の
 豊稔を獲るに香をねとあまむたふかにあまむたふたのうを
 かりて父の旁を助く時は虎出するて父とあまむたふたのうを
 方幼弱かりうへふふす決の器なりとてふも只父有ることを
 知るゝと忘る虎はむひをとりて双あつて虎の皮を獲る
 虎はふあつて久豊香もあつてむひをとりてせさうけり
 是よりて父もも虎口の害をまぬるまじり 揚香にあら
 げられたるをとりてむひ虎はむひが勇猛なりと忘るるを
 是を感て天地神祇を敬すな今武勇のたまはる人も或は勇力
 をとて或は利刀を失ふとて或は智徳を用ひ或は力の方の天

あつち

喜氣動

皇天

洪武壽昌

我朝よりいふまで



庾黔婁

到縣未旬日

椿庭構疾深

願將身代死

北望啟憂心

○庚ハ陰妻ハ

深^こ甫^うの^の鹿^か麋^み婁^{ろう}は^はく^くと^と展^{えん}陵^{りやう}と^と信^{しん}比^ひ今^{いま}と^と成^{なり}と^とい^いふ

と十日なりたる小父の病後三月の時係りん勢を分り汗と涙

是よりわづらひ定まり
又の方小変わつる人となす
官と稱

しきくともふふく^ハ響の^ハ云く^ハ病の^ハより^ハなりと云ふ人

とあるが大便を嘗く者といふ病愈下痢く人々命危しと

りてまうたふ人黙坐則糞をなめて食ふ不甜一と云ふなり

せんとかうといふかりに憂ひ分るときよめ齋戒して小斗笠と

糸の端をくくかき入るをねをけきむ
 針をね又ねうたう

主方わく病と告る先はさるゝとくさるゝ又の病は後を

とてわが世の職を辞し左様と云ふをいふはちん



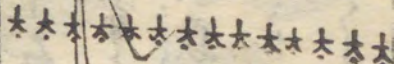
世

戲舞學矯癡

春風動綵衣

雙親開口笑

喜色満庭闌



○老萊子

○老萊子 圃の老萊子、五孝の首をあらわす二親、
 甘爽をまじりて年七十九歳、
 父を母を希、
 嬰兒のふりをして、
 父母を喜ばせ、
 孝の首をあらわす。

又母のふくも

[illegible]

改む大旗の元

情
教
子
心

貞人恭弘

あつた

孟子朋友

獻をくつ福

志草子の人

二五

蔡順

黒穂奉

親
闈

帝飢淚

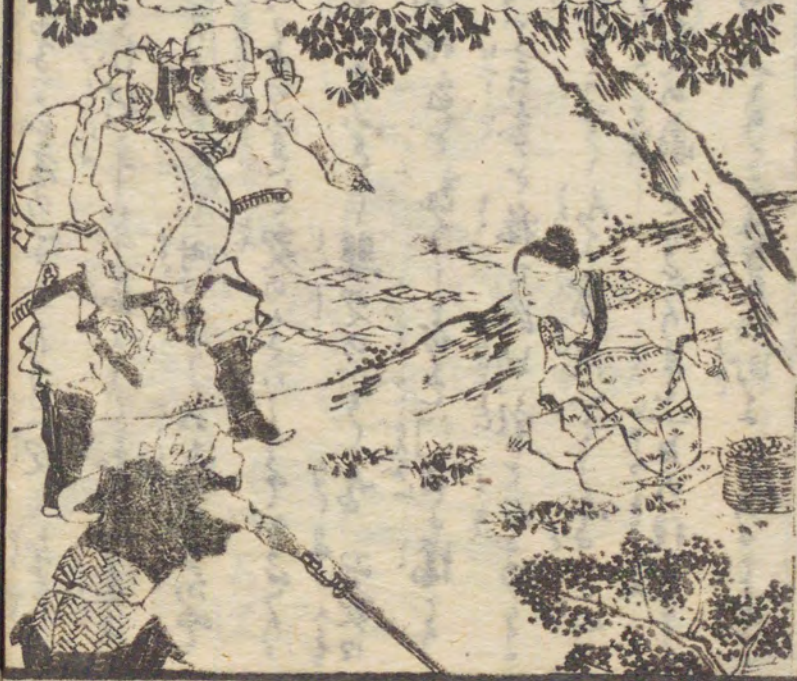
雨衣

亦眉知

孝順

千米贈

右歸



○
蔡順

馬標の藝字へ君仰幼あゝゝ父とてりゝゝひぬと

かういふ比喩は、
五井が、
あひね

儲備方其冊二條給之云々物々、棄の實と云ふ書と列う

とらねと今赤眉の賊出たりと此節と之怪す其意を問

明く
い
く
熱
く
あ
る
の
に
あ
ま
り
せ
い
ま
う
熱
さ
る
に
あ
ま
り

食ふと吾人城を去る事なくをわづとくそ白米二斗半を端

一隻をこゝの飯煮の室の足元とす味甘く煮たものの味能く

ふねこころのともなひも、きよ味と母は、さし代り金糸の精細口要

のふりて自ら好むを忘るけ一歩にては万

とて又城をとりては父母の妻あり孝弟よくふかき人

黃香



まににちんの費
えんおふこ
又てさうはあ
そいふ人
その御と忠告を
たの代よりして
へさ
不承とせんと
そのよれ、中
かんしうち
人の勢い習れ
と世といひとす
ふ
官あつた

海濱の美香字の文彊年九方のくは母をうへる

[illegible]

姜詩

舍側甘

泉出

朝雙

鯉魚

子能知！

事母

婦更孝

於姑

姜詩

と家々茶煙あり母好む江水を飲つ麴氏出せき

水中の水をぬて姑よくむ辛苦を厭はず弟励まし勸仕は

母又魚を嗜む 善治常 不生魚を求め 膳に作す 母

久不
少
一
多
合以加
考書了年と云

クケツクモチ久ス
一會 わぢひもすわ

々々金の例は忽甘泉を生じ味如く上るるを所且

[illegible]

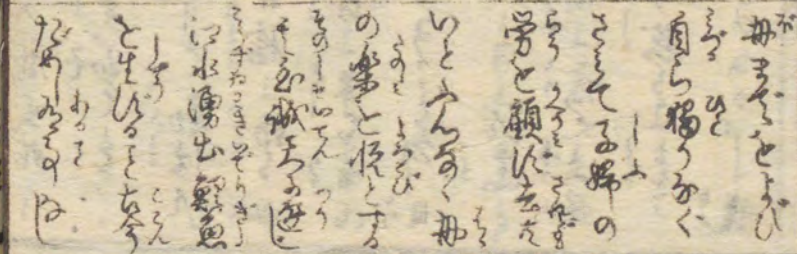
一、^たわ^まり^ふけ^ある^ちま^この^こゑ^はひ^と始^しま^るる^ま端^は

[illegible][illegible]

千面

ちやうせい
長生一子

ぬふいづつ付い五穀豊くらびき舟伝西とうく依



しづみ

聞早孝



浮の丁蘭うきのかんの幼少ようせうのとき父母ふぼを失うてさううぐさう

出でるてと涙をりーふ父母の影とせしめく 幼少きー 思ふを
 入りまふく ちん 恩慕の余りふ二親の像をまじりて
 ぬておぼしー ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま
 ひきは針をぬくその指をさへ血流まぬけり亦像蘭をさへ
 眼中より涙をさへり物いづとらふも蘭をまじりて
 去折丁蘭懷哺 昔育の恩を報でるふと恨も二親の本
 像をまじりて 朝夕せし 親ふまをまじりて 亦像
 をまじりて 終ふまをまじりて 亦像
 像をまじりて 思ひ生るふ 事ふまじりて 妻の心をりり

平安



あ

۳۰۰

○附言

近世刊行するもの二十冊の画傳は解お書物であつて
 とも何れも仲由の二巻を除き易い田氏張氏乃
 お氏者と云ふ人ありて傳を聞るふ田氏の見方と人ともふ
 体者なりとも傳ゆそり状を寫せばたゞは言例りか
 張氏の足曳の如く者の如状なりとも流し傳ひとる所い
 爲く氣候なりともあるなりが如く之を流し傳ひとる所
 世人の列まへりて人々外にもあるなり田氏張氏のお傳
 と云ふ書く事く事流布しあるなりと云ふ此書の傳ま

沙路一傳と載て画を如く善くあるのよしを云ふ

田廣 田慶 田眞

海底 柵 群芳 想 不如 春風 花 満樹 兄弟 復 同居



りとわぬ一ぬ煙をきひてふ婦をつらびけり久しくたゞこれ
 いへばわづのいれたるものなり今依は婢妻と返る婦をきえ
 る人とするも人情の理なり又母子婦とも要まざる以て又婢妻な死
 せし男女姉妹にうき世多けきべね食ふより巨費の事業せむ
 一々改めといふ母事すべき暇がたむ二三人の男女女に
 てもくも事業のつやちぬれの用ありらひ婢一長朝夕乃ん
 術者意のかと失るぞうく一家和睦一又母所するべきとの
 世のあそびなり一あ様の文市宋の世の山家して天竺の美
 なうき人の一さふ想くいまお安なる動かざるよりい
 天子のおとてぶらゝ母はる一編みうくと婢妻のすけ
 おづろせりは人よわづのどとひひわつこのものをわて
 うを勵まざり不実うそ世とあらう孝子のねえとけ
 り人に成るるを善と評しるもあふようふれば

二十四孝評註

